



淀城跡

納所 水垂

慶応頃絵帖『淀川八幡山勝景』部分 国立国会図書館蔵 デジタル化資料より

淀・納所(のうそ)地域は桂川、宇治川、木津川の三つの河川が合流する三角洲であり、古くは平安京への物資や人が往来する要衝の地でした。地名の「よど」は水の澱む所であり、納所は品物を納める所を意味し、軍事的にも重要な場所であることがわかります。ここには室町時代から豊臣秀吉の時代に、淀古城が設けられました。徳川家康・秀忠の時代に新たに造られた淀城が、幕末まで稲葉氏の居城として存続し、城跡が風情を残しています。歴史ある史跡と遺跡の地を歩き、淀城跡の変遷をご紹介します。

桂川・宇治川・木津川 三川合流



宮前橋からの桂川(北方向)の眺め

かつて桂川・宇治川・木津川の三川が合流していた水運の港「淀津」は、平安時代から京都への交通・物流の拠点となりました。三川合流地点の中島には12世紀頃から魚市が存在し、瀬戸内海からの海産物や米、塩、木材などの荷揚げ港となって発展しました。16世紀末まで、琵琶湖から流れる宇治川は巨椋池(おぐらいけ)へ流入し、遊水池となっていました。豊臣秀吉の伏見城築城に伴い、「太閤堤」をはじめとする大規模な治水工事が行われました。これによって宇治川と巨椋池が分離し、伏見港と大坂を結ぶ新たな水路が確保され、三川合流地域の地形も大きく変わりました。江戸時代には三川合流地点の中島に淀城が築かれ、川の流れを城内の堀割に取り込み、周辺には城下町が形成されました。明治時代から昭和時代にかけても巨椋池の干拓や河川改修が頻繁に行われ、現在では淀から南西の下流へ移動した、大阪府との府境付近が合流地点となっています。

【現在の三川合流概略図】



淀古城から淀城への変遷	
永正元年(1504)	摂津守護代の薬師寺元一が淀城を占拠し、細川政元に謀反を起こす
永禄2年(1559)	三好長慶の命で管領細川氏綱が淀城に入城
天正10年(1582)	山崎の戦いで淀城が明智光秀側の砦となる
天正17年(1589)	豊臣秀吉は弟の秀長に淀城を修築させ、産所として茶々(淀殿)に与える
文禄3年(1594)	伏見城築造の計画に伴い淀城が破却される
元和9年(1623)	伏見城廃城、徳川秀忠が松平定綱に淀城の築城を命ずる
享保8年(1723)	稲葉正知が10代目城主となり、以降幕末まで稲葉氏が城主を勤める
宝暦6年(1756)	落雷により建物の大半が焼失、以降再建されず
慶応4年(1868)	鳥羽伏見の戦いの兵火により城下町が炎上
明治4年(1871)	淀藩の廃藩に伴い、淀城は廃城となる(現在は淀城跡公園)

② 常念寺

江戸時代に水垂にあった六ヶ寺が統合して創建され、桂川改修工事により2009年に現在地に移転しました。境内の観音堂には、淀殿の守り仏と伝わる観音像が安置されています。



本堂

③ 伊勢向神社

祭神は天照大神で、もとは淀小橋の東方、宇治川の中島の浮田の社にありました。宇治川の改修工事で中島が水没したため、現在地に移されました。浮田の社の名は洪水の増水時にも水没しなかったことに由来し、古来和歌の名所でした。



① 淀城跡公園

1623年、徳川秀忠の命で松平定綱によって築造が始まった淀城は、廃城となった伏見城の資材と二条城の天守が移築され、約3年をかけて三川合流地点の中島に完成しました。以降は京都守護の拠点となり、松平氏や稲葉氏など諸国の譜代大名が居城し、明治維新まで存続しました。現在は本丸・天守台の石垣と内堀の一部が残り、公園として整備されています。



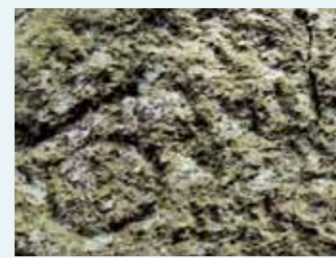
天守台の石垣



前田利常・利長の刻印



加藤清正の刻印



毛利輝元の刻印



内堀の東南角からの淀城跡の眺め



五番ノ橋(ごばんのはし)
明治45年に造られた、鳥羽街道(千本通)の納所に架かる橋です。鳥羽街道に沿う付近一帯には、一番町から九番町と呼ばれる地名が残っており、この番号は朝鮮通信使のための番役などの割り振りであったと思われます。

古淀城薬師堂址(よどじょうやくしどうあ)
この場所に破却された淀古城の薬師堂があったとされています。

淀小橋旧趾(よどこばしきゅうし)
淀城はかつて三川の合流地点に位置し、城の北に面した宇治川には「淀大橋」がかけられ、淀城と城下町への入口となっていました。

唐人雁木旧趾(とうじんがんぎきゅうし)
朝鮮通信使が上陸した船着場の階段があった所とされています。その形が、空を飛ぶ雁の列のように段状であることから、雁木という名で呼ばれています。

朝鮮通信使とは？
朝鮮国王が日本に派遣した外交使節団。江戸時代、将軍の代替わりや慶事の際に訪れ、国書の手交をはじめ儒教や医学などの朝鮮文化を伝えました。釜山から海路大坂に至った一行は、川船で淀川を遡って淀で上陸し、京を経由して東海道を江戸へと向かいました。

淀川水車旧趾(よどのかわせのみずぐるまきゅうし)
江戸時代の淀城には宇治川や淀川に面して二ヶ所の揚水用の大水車(直径約8m)があり、城内の庭園に川水を汲み上げる役割を担っていました。



内堀の南側にある水車模型

④ 妙教寺

豊田秀吉の側室・淀殿の産所となった淀古城跡推定地の一角に、1626年に建立された法華宗の寺院です。寺の南側にある水路は淀古城の堀跡とされ、周辺には「北城堀」など城に関する地名が残ります。1868年の鳥羽・伏見の戦いで激戦地となり、本堂には砲弾の貫通跡が残されています。



拝殿と御神木のイチヨウ



淀城址石碑



内堀の蓮



本丸跡の公園

淀殿



父は浅井長政、母は細田信長の妹・お市の方。三姉妹の長女で本名は茶々。幼少期を母とともに細田家の保護のもとで過ごしました。その後秀吉の側室となり、嫡男・鶴松の出産(1589)にあたって、室町時代に築城された細川氏らの居城「淀古城」が与えられ、以降は「淀の方」と称されるようになりました。その後大坂城で秀頼を産出し(1593)、秀吉亡き後は世継となった秀頼の後見人として豊臣家の家政を任されました。関ヶ原の合戦後に実権を握った徳川家康と対立し、大坂夏の陣(1615)で大坂城が落城、秀頼とともに自害しました。「淀古城」は後に江戸幕府によって築かれた淀城と区別するためこの名で呼ばれています。

⑤ 水垂收藏庫

京都市内の遺跡から出土した貴重な埋蔵文化財を収蔵する施設で、鹿苑寺(金閣寺)から出土した修羅(しゆら)や、淀城跡の遺物、水垂遺跡で見つかった水田跡の足跡などを展示しています。また、展示ガイダンス室、図書室を併設しており、展示物の鑑賞から歴史教育の場としての活用まで、目的にあわせてご利用が可能です。見学には事前申し込みが必要です。



淀古城址石碑

鐘楼と本堂

堀跡とされる南側の水路

戊辰役東軍戦死者碑



主な展示内容

【展示収蔵室】
鹿苑寺(金閣寺)出土した修羅(しゆら) 大・小安土遺跡の木炭木樺炭 水垂遺跡の水田足跡はぎ取りパネル 他多数を展示

【ガイダンスルーム】
水垂遺跡出土 弥生・古墳時代の土器・木製品 長岡京跡出土の土器・木簡類 淀城跡出土の遺物他多数を展示

(問い合わせ) 京都市文化財保護課 ☎ 075-366-1498

淀城跡納所 水垂



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

淀城跡 納所 水垂周辺の発掘調査

淀 納所（のうそ）は、宇治川と桂川に挟まれた地域で「淀」の呼称は、川が合流し緩んでできた「よどみ」に由来しています。京都盆地の南の出入り口にあたり、標高が約10mと低く、盆地内の河川が全てこのあたりで合流しています。京と大坂(阪)や西国方面を繋ぐ水陸交通の要所でした。元和九年(1623)淀城が淀中島に築られました。それ以前は、文禄三年(1594)に破却された古淀城が、旧宇治川北岸の納所辺りにありました。淀城跡の発掘調査は数多く行われ、最近では京阪電気鉄道淀駅の移転と高架化に伴う発掘調査が継続して行われ、淀城に関連する遺構が多数見つかかり、当時の城の様子が明らかになってきています。城の北にあたる水垂（みずだれ）地区は、桂川右岸の流域で標高10m前後の低湿地です。1990年から発掘調査が行われ、古墳時代の多数の竪穴式住居や水田跡などが見つかりました。このため、集落跡として、地名から水垂遺跡と名付けられました。

5～7 水垂遺跡 長岡京左京六・七条三坊跡

水垂地区では1989年から1995年にかけて大規模な発掘調査が行われ、古墳時代の竪穴住居や水田をはじめとして、長岡京の道路跡や川跡などが見つかっています。特に、川跡からは墨書人面土器とよばれる土師器の側面に人の顔が墨描きされた土器や土製・木製品が多量に見つかりました。これらの出土品は2011年に長岡京の境界祭祀の実態を示す貴重な資料として、市指定文化財となりました。中世は河川の残存部等が池跡として残り、池跡からの排水路には丸木船を転用した木樋（もくひ）が見つかっています。

5 水垂遺跡（古墳時代）



河川に囲まれた集落跡



上空から見た水田跡

1～4 淀城跡

永正元年（1504）納所に淀城（古淀城）が置かれましたが、文禄三年（1594）破却されました。元和九年（1623）に伏見城の廃城が決定され、京都守護の城として新たに淀城が築かれます。1987年に天守台の調査が行われ、淀城跡公園として整備されました。1999年から2010年にかけて京阪電気鉄道淀駅高架に伴う発掘調査が実施され、本丸の曲輪、内堀や外堀の濠、石垣、三の丸内の米蔵、淀城築城以前の道路と町屋などが発見され、古絵図などに示された、淀城の全体像が明らかになりつつあります。



『淀城大絵図』 京都大学工学研究科建築学専攻蔵

1 本丸の天守台跡



(写真掲載 『京の城～洛中洛外の城郭～』京都市文化財ボックス 第20集 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課発行)

2 淀城中堀跡の石垣

2006年の発掘調査で旧淀駅下から中堀跡の西側石垣を発見しました。石垣は下に続いており、堀はさらに深くなっていました。さらに2010年の発掘調査でも中堀跡の西側石垣が見つかっていました。



淀城中堀跡の石垣



淀城中堀跡の石垣

3 淀城築城以前の遺跡

2004年の調査では淀城築城以前の大坂街道跡を発見しました。道路の幅は約7.5mありました。また道路跡に隣接する調査区では、町屋の跡も見つかり、古淀城の城下町の様子が明らかになってきています。



淀城下層で見つかった道路跡



道路跡に隣接した町屋跡

4 淀城東曲輪の米蔵跡

2003年の発掘調査では米蔵の基礎跡と礎石跡を発見しました。基礎跡は「布基礎」とよばれる帯状に礫を詰めた基礎工法で、幅2～3m、深さは約1.5mありました。米蔵跡は東西約39m、南北約8mの長大な規模でした。



米蔵の基礎跡 手前から奥に向かって帯状に礫が集石する部分



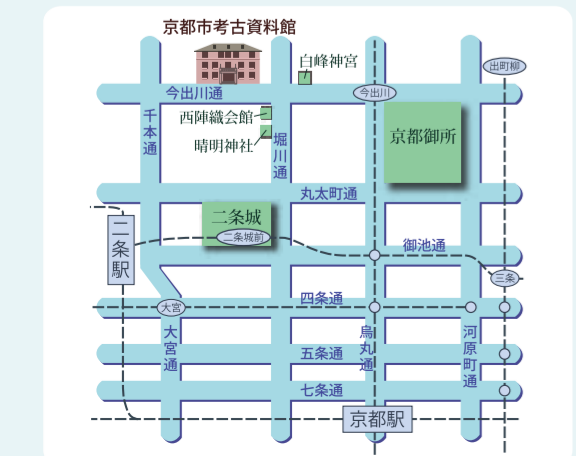
米蔵の礎石根固め断面 礫敷きの上に大石を重ねています



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日）
開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



水田に残る無数の足跡

6 長岡京左京七条三坊三町跡（長岡京時代）



河川跡から出土した多数の墨書人面土器や土馬



祭祀に使用された墨書人面土器と土馬や木製品（市指定文化財）

7 排水路跡（鎌倉時代）



丸木船を転用した木樋

